

ぶんきょうくしょうがいしゃちいきじりつしえんきょうぎかい
文京区障害者地域自立支援協議会

れいわ ねんど だい かいしょうがいたうじしよぶかい ようてんきろく (あん)
令和4年度 第3回障害当事者部会 要点記録 (案)

【日時】 れいわ ねん がつ か (か) 10じ～12じ
令和5年1月24日 (火) 10時～12時

【場所】 ぶんきょう シビックセンター3階 障害者会館

【出席者】 たかやま なおき (じりつしえんきょうぎかい かいちょう)
高山 直樹 (自立支援協議会 会長)

しむら けんいち (じりつしえんきょうぎかい ふくかいちょう)
志村 健一 (自立支援協議会 副会長)

ちくま せいじ (ちてきしょうがい)
竹間 誠次 (知的障害)

ながの えいちろう (ちてきしょうがい) オンライン参加
永野 栄一郎 (知的障害) オンライン参加

いしい かずよ (ほつたつしょうがい)
石井 和代 (発達障害)

なかやま まきみ (せいしんしょうがい)
中山 雅美 (精神障害)

はしもと じゅんいち (くいいん)
橋本 淳一 (区委員)

ひぐち まさる (じりつしえんきょうぎかい そうだんしえんせんもんぶかい ぶかいちょう)
樋口 勝 (自立支援協議会 相談支援専門部会 部会長)

【事務局】 み のぐち せき あらきだ はやし (ぶんきょうくしょうがいしゃきかんそうだんしえんセンター)
美濃口、關、荒木田、林 (文京区障害者基幹相談支援センター)

【欠席者】 こにし けいち (しんたいしょうがい)
小西 慶一 (身体障害)

河野 孝史 (身体障害)

安達 勇二 (自立支援協議会 地域生活支援専門部会 部会長)

【補助人】 久保田 貴 (竹間委員補助人)

鈴木 寛樹 (永野委員補助人) オンライン参加

【開会前に事務局からの連絡】

- ・ 出欠確認
- ・ 事務局員の変更について確認
- ・ 傍聴及び会議内容の公開について確認
- ・ 記録のため、会議内容の録音と写真撮影についての確認
- ・ 資料の確認

1. 開会挨拶

文京区障害福祉課 橋本課長より挨拶

本日は、1年で3回あるうちの障害当事者部会の最後の第3回目。前回10月にこの部会で話し合われた

内容を、親会や別の部会でお伝えさせていただいた。それを受けて親会、各部会で話し合われたことを

今日皆さんにお伝えし、皆さまの委員としての様々なご意見やご発言をいただきたく思っている。

2. 今年度の自立支援協議会の流れ

事務局より説明

今年度から協議会の在り方を変えて運営の方を行っている。各部会で話し合われてきた、まだ解決されてない課題や協議されつくしてないようなことを、一旦当事者委員の皆様にもきちんご理解ご意見を頂戴した上で運営をしていこうということで今年度はやっている。今年度は「切れ目のない支援」と、「文京区における居住の問題」という2つの問題が話し合われている。それぞれが親会や部会で話し合わせ、その結果がまとまってきたため、今回はそれについての皆様からの忌憚のないご意見をいただきたい。

3. 議題

(1) 親会および相談支援部会・地域生活支援部会の報告

●相談支援部会樋口部会長より相談支援部会の報告(資料第1号)

令和4年度は、障害者の支援に切れ目があること、障害者の住まいが見つかりにくいこと、以上2つのテーマを議論することになった。そして前回10月7日の第2回障害当事者部会では皆様にこれまでの経験を語っていただいた。最初にそれらを振り返りたい。

【10月7日 第2回障害当事者部会で出た意見】

- ・今までお母様が生活に必要なものを買ってくれていて、母がいなくなったらどこに何を売っているか不安。
- ・親がいなくなった後一人暮らしできるか心配。

- ・グループホームから出て一人暮らしする際は住まいがなかなか見つからなかった。
- ・保健師さんの支援を受けてグループホームに入居して、そのあとグループホームの職員さんの協力もあって一人暮らしの住まいが見つかって今はヘルパーさんの支援を受けて生活している。
- ・グループホームに入る前は様々な不安があった、自由に外出できるのか、どんな世話人がいるのか、利用費を支払えるのか、今まで通り通所施設を利用できるのか。
- ・自身の障害に応じたグループホームが少ない。
- ・学生の頃周囲の理解得られずに助けてほしいことがあったが自分ひとりで何とかしないといけなかった。

これらの意見を親会と相談支援部会と地域生活支援部会に報告した。

まずは10月28日親会に報告し、色々な意見が出た。

【10月28日 親会で出た意見】

●支援の引継ぎについて

- ・学校の卒業や引っ越しなどの生活が変化する時に新しい支援者に自身のことを一から説明しなくてよい共有のツールがあると良いのではないかな。
- ・支援者がお互いを知る機会を持つ。
- ・新たにかかわる支援者がどういうところから本人や家族にしっかり説明できるか。
- ・ライフステージが変わる時に支援者個人の経験等に影響されずに次の支援者に引継ぎできるシステムも必要。

●住まいについて

- ・文京区の家賃が高い、住むには補助などの支援が必要。
- ・今ある建物などをグループホームなどに活用できないか。
- ・グループホームに土地を活用したいと思った時の相談先が分からない。
- ・障害者の方の一人暮らしをサポートする障害福祉サービスの自立生活援助サービスが文京区に無い。

12月2日には相談支援部会と地域生活支援部会が合同で開かれている。沢山の課題が昨年まで出ており、課題を解決するためのアイデアを出していこうということで今年度運営している。皆様のご意見もこの部会で報告させていただいて、沢山のアイデアが出た。

【12月2日 相談支援部会と地域生活支援部会が合同部会で出された意見】

●支援の切れ目について

- ・福祉サービスの移行についてのマニュアル作り。
- ・新たな支援者に引き継げるツールや情報共有の仕組み作り。
- ・人と人が繋がる場や支援者がお互いの知り合う機会を作る。
- ・生活が変化する時だけでなくその前から丁寧な引継ぎが出来る仕組み。
- ・それぞれの機関や情報の周知とそれをキャッチする支援者の努力と工夫。
- ・支援者が研修で学んだり別の分野の勉強もできたりする仕組み
- ・新たな支援者に引き継ぐためのマニュアルや本人のことを一目で分かる情報や支援の記録が共有できる仕組み。

●住まいについて

- ・文京区で障害がある方が住まいを探しやすくするための話し合いの場を設けたらどうか。
- ・プロジェクトチームなどの動ける専門のチームを作ってはどうか。
- ・協力してくれる不動産屋や大家を見つける、増やしていけるようにネットワークを作っていく。
- ・見守りやトラブルへの対応など暮らしをサポートする体制が整うと一人暮らしがしやすいのではないかと。

そこで、今一度皆さんお尋ねしたいことが、一つ目に「支援者から支援者へと引き継がれる、あなたのことが一目で分かる経歴書のようなツールがあったら使ってみたいと思いますか」二つ目に「もしも一人暮らしをするならどんな支援があると心強いですか。またはどんな支援があれば住まい探しをしたいと思いますか」

以上が報告となります。

●以下の質問について各委員から発表(資料第2号)

①支援者から支援者へと引き継がれる、あなたのことが一目で分かる経歴書のようなツールがあったら使ってみたいと思いますか。

- ・とても良い。是非ほしいし、使いたい。
- ・何をどこに相談して良いか一緒に考えて、相談場所に同行してくれる人もいたら良い。(添付資料参照)
- ・支援者同士連携が取れて相談しやすくなるので、使ってみたい。
- ・ツールは分かりやすくコンパクトなものが良い。お薬手帳のようなもの。
- ・自分の昔のことが分かってもらえるので使いたい。

- ・ 障害問わず誰が見ても分かりやすい物であれば使いたい。

● 高山会長よりコメントと部会員に質問

例えばお薬手帳を例にとると、膨大な量があって、極めてプライベートなことを書いてあって、出身地や転居歴などの情報とはまた違う意味を持つと思う。支援者が変わったらまた一から自身のことを話さなければならないのは、当事者側の問題ではなく、支援者側のネットワークやあり方の問題だとも思う。そこをどうするかということを考えていかななくてはならない。例えば計画に当事者の意思がしっかり反映されているとか、支援者間で共有されているかなど。そういうことを考えると、本当に経歴書は必要か？と思ったが、皆さんはどう思うか。言いたくない、話したくないところが、本来支援が必要となるようになってくる場合もあるし、誰が見ても分かるというのはある意味怖いことでもある。

- ・ 本人の覚悟も必要。受けたいサービスによっては喋りたくないことも喋らなくてはならないので。
- ・ 当事者が受けたいサービスをしっかり認識していないと、支援者のやり過ぎにもなりかねない。
- ・ 自分はよく支援してもらっていると思う。信頼関係が出来れば知られることに抵抗は無い。

● 相談支援部会樋口部会長よりコメント

みなさんから、こんなツールがあると活かせるのではないかという意見を貰ったので、部会でも取り組んでいきたいと思った。実際これを形にして、これなら使える、これなら自分のことをわかってもらえるというような意見を貰い、良いツールにしていきたいと思う。あとは、相談窓口に行くことが負担という声をよく聞くので、同行者やキーパーソンの存在をどう作るかは考えていきたいと感じた。

②もしも一人暮らしをするならどんな支援があると心強いですか。またはどんな支援があれば住まい探しをしたいと思えますか。

- ・同行者や引継ぎシステムや訪問してくれる人、気軽に相談できる人、お茶のみ友達等、対等に扱ってくれる人が支援してくれると心強いと思う。
- ・利用費や家賃補助があると一人暮らししやすいと思う。
- ・自分のことを理解して、時に背中を押してくれたり、時に止めてくれたりする人がいると心強い
- ・料理と掃除を手伝ってくれる人がいると心強い
- ・重い物を持ってくれる人がいると助かる。
- ・一人暮らしは寂しいしつまらないので今は考えていない
- ・生活全般支援してくれる人がいると心強い
- ・実際家を探す時に不動産屋さんや大家さんとのやり取りを手伝ってくれる人がほしい
- ・料理してくれる人やお弁当を頼めるシステムがあると心強い
- ・体調が悪くなった時に病院に繋いでくれる人がいると安心
- ・電話が苦手なので電話対応を手伝ってくれる人がいると心強い
- ・買い物へ行った時に重い物を持ってくれる人がいると良い

●相談支援部会樋口部会長よりコメント

具体的に生活に必要なものを教えていただけだったので良かった。例えば病院の連絡等は私ではパッと思いつかなかった。自分が困った時の連絡先を教えてくれる人が大事なことで、キーパーソンの人は

一人暮らしをしても大事なことを実感した。また、部屋探しをするには一人で探すのは絶対に大変と
思うので、支援者がそういうスキルを身につけると共に、協力してくれる不動産屋さんや大家さんを
作ることもやっていかななくてはならないことだと感じた。

③この1年、当事者部会に参加してみてのご感想や来年度の当事者部会についてのご意見がありましたら
教えてください。

- ・参加にドキドキした
- ・他の当事者の方の意見が聞けて参考になったし勉強にもなった
- ・他の人の意見を聞いて、協力しながらよりよい社会を作っていけることを感じた
- ・就労を目指しているので、就労支援部会の方と意見交換してみたい
- ・みんなのお話を聞いてみると色々なことが分かった
- ・障害者のサークル活動の情報が知りたい
- ・この会に参加するのを重く受け止めていて、自分の調整が出来ず周りの方に迷惑を掛けたという反省
が大きい。いろんな準備に参加できなかつたりメールを返せなかつたりしたので。
- ・公的な場所で自分の意見を話すことは好きなので、これからも続けたい
- ・人の障害のことを知ることや、自身の障害がどう感じられているかも知る機会は大事だと思うため、
サークル活動の情報は自分も知りたい

4. 閉会挨拶

自立支援協議会 高山会長より挨拶

貴重な意見ありがとうございました。サークル活動の話があったが、来年度作ってしまったらどうか。

経歴書についても、こういった経歴書がほしいと発信する形にしていてはどうか。文京区を耕して

豊かにしていくには、当事者たちの声しか無いと思う。我々支援者は疲れてしまって諦めているところが

あるため、エンジンを吹かすために当事者の方たちにターボチャージャーになってほしい。

居住の問題については 20年前から変わっていない。発信という意味では、文京区居住支援協議会とい

う団体があるが、この当事者部会と相談支援部会に今回の意見を持っていったり、話し合いをしていった

りしてはどうかと思う。避難所運営協議会等、色々協議会があるので、来年度様々な形で発信してける

ようになってはどうかと感じた。

5. その他連絡事項

事務局から

●来年度の予定については決定し次第連絡する

